

2年

2年生は、先日、オーバードホールで行われた連合音楽会に参加し、「えがおのはじまり」と「小さな世界」を発表しました。

これまでの練習では、「心をついに ひびけ空高く」を合言葉に、一人一人が聴いている人に歌声を届けるにはどうすればよいかを考え、声の大きさや表情を工夫していました。また、歌声が裏声に変わったときに感動してもらえるように、友達の声をよく聴きながら歌声をついにできるようにと意識をしていました。

本番前は緊張から表情が硬くなっていた子供たちも、ステージに立つとこれまでの練習を思い出し、心を込めて歌うことができました。子供たちの明るく伸びやかな歌声は、

会場全体を温かく包み込みました。音楽会を終えた子供たちは、「みんなの前で発表することは苦手だけど、練習をがんばってきたから大きな声で歌えてよかった。もっと歌いたい」「本番でとてもよい歌になったから、学習発表会ではさらにレベルアップして歌いたい」と、それぞれが次につながる思いや願いを語るなど、大きな達成感を味わっていました。

今回の経験を通して、子供たちは「仲間と心を合わせることの大切さ」や「歌声を響かせる喜び」を学びました。この達成感を、今後の学校生活にもつなげていきたいと思います。



4年

4年生の国語科では、「ごんぎつね」の学習を進めています。その中には、自分で課題を決め、考えたことを模造紙やスライドにまとめて友達の前で発表したり、友達と見せ合ったりする姿が見られます。そして、子供たちは、友達の発表やスライドを見聞きしながら、自分の考えと比べ、たくさんの意見を交わしています。

そのような子供たちの様子を観察していると友達の考えを聞いて「なるほど!」「本当だ!」と驚く子供や「もっと自分のスライドを直したい」と新しい気付きを加える子供も見られます。



子供たち同士で学び合うことによって、一人一人が友達の学びとつながり、互いに高め合おうとより主体的に取り組んでいます。こうした活動を通して、子供たちの中に「学ぶことの楽しさ」や「友達と考えを共有する喜び」が少しずつ育っているように感じます。

『ごんぎつね』の学習が楽しい」「まだ読みたい」という声も多く聞かれ、物語に親しみながら国語の学習を楽しんでいる様子が伝わってきます。これからも友達と意見を交わしながら、一緒に学びを深めていってほしいと思います。

6年

突然ですが、皆さんは、パッヘルベル作曲の「カノン」をご存知ですか？

子供たちが初めてこの曲を聴いたときは、「卒業式や卒業式で流れていない?」「僕の家のお風呂が沸いたときの曲だ」とつぶやいており、日常生活の中で何気なく耳にしているようです。

そこで音楽科の時間に、『カノン』を自分たちで演奏し、藤ノ木小学校の様々な活動のBGMとして流そうと投げかけました。すると、子供たちは、どのようなときに、どのような「カノン」を流



したいかを考えはじめました。そして、「楽しいカノンにすると、藤っ子も楽しく掃除ができそう」「休み時間から教室に戻るときは落ち着いて移動できるように、穏やかなカノンがよいと思う」と、音楽がもたらす効果を感じながら、よりよい学校生活について考えていきました。

最近では、グループで決めたテーマに合う「カノン」にするために、仲間と意見を交わし合いながら様々な楽器を使い、強弱や速度、リズムを変えたり、演奏方法を工夫したりと、お互いに助け合いながら練習を頑張っています。どのような「カノン」が流れるのか、とても楽しみです。



